



3D VISUAL FUNCTION TRAINER

ORTe

第70回日本弱視斜視学会総会・第39回日本小児眼科学会総会
ランチョンセミナー3

日本初の次世代両眼視機能 検査・訓練装置 ORTe



日時: 11月30日(日) 12:00-13:30

会場: 国立京都国際会館 第1会場(ホールC-2)

座長



不二門 尚 先生 [大阪大学]

演者



半田 知也 先生 [北里大学医療衛生学部]

新しい両眼視機能検査・訓練装置の創意工夫

3D Visual Function Trainer-ORTeは、従来の両眼視機能検査・訓練理論に3D映像技術を用いた創意工夫を加えることで実用化された日本初の多目的両眼視機能検査・訓練システムである。本装置は視力検査、両眼開放視力検査、同時視検査(眼位検査含む)、融像検査、近見立体視検査、遠見立体視検査、VFT-HESS検査(9方向眼位検査)、S.G. Test、4Dots Test、三桿法検査、VFT-Aniseikonia検査、Preferential Looking法検査の計12の検査法、及び両眼開放下による弱視訓練(Catch game, Touch Game)、抑制除去訓練、融像訓練、立体視訓練(近見、遠見)の各種視能訓練法が初

期導入されている。

本セミナーでは3D Visual Function Trainer - ORTeの機能および効果について、臨床成績と共に述べる。さらに家庭において3D Visual Function Trainer - ORTeの弱視・斜視視能訓練を可能としたタブレット型視能訓練装置: ORTe Occlu-Padについても臨床成績と共に供覧する。短時間及び再現性の高い両眼視機能検査、及び小児の限られた感受性期間内に行う効果的な視能訓練法について3D Visual Function Trainer - ORTe及びORTe Occlu-Padを基に考えたい。



演者



仁科 幸子 先生 [国立成育医療研究センター]

ORTeによる小児の検査

3DビジュアルファンクショントレーナーORTeは、明るい部屋で“3Dテレビ”を見る検査・訓練装置であり、円偏光眼鏡を使うため頭位に影響されにくく、視標が色々工夫されていて、3D映像時代の子ども向けの検査として有望である。早速、本装置を小児の斜視患者に使用する機会を得たので、現場の視能訓練士の声を交えてご紹介したい。

まず発達遅延のない患児(年齢5~12歳)に、ORTeで同時視、融像、立体視検査を行い、従来の大型弱視鏡、近見立体視検査と比較した。ORTeの同時視検査・自覚的斜視角は大型弱視鏡とよく相関したが、融像検査には

バラツキがみられた。またORTeの立体視検査は、200秒未満の精密検査ができないが、視標や距離が可変で、飛び出し・引っ込み、遠見の立体視検査を簡便に行える点が有利であった。他覚的斜視角の測定と眼位の観察が困難であること、マウス・コントローラー操作に習熟が必要であることなど難点はあるが、被検者小児には検査が楽しい、面白いと圧倒的に好評である。本装置を利用すると両眼開放下の患眼訓練や融像・立体視訓練も楽しく行うことができる。今後の活用法に次々と期待が膨らむ装置である。

共催: 第70回日本弱視斜視学会総会・第39回日本小児眼科学会総会
(株) JFCセールスプラン/ジャパンフォーカス(株)